

# 平成28年度 事業報告



文化の香り豊かな倉敷に位置し、絶好の勉学環境を有し、地域に根差した大学として、地域と協力して、地域の活性化引いては社会の発展に役立つ学生を育てるため、教職員が一丸となって、徹底した教育指導を行います。



教育面では芸術と科学の協調をさらに推し進めて、3つの学部の枠を超えた連携を深め、幅広い知識と柔軟な思考力を持つ学生の育成を引き続き行っています。また、これ

まで以上に教養教育を重視し、その内容を見直し、学生が地域で活躍することができる常識と教養を身につけられるよう教育していきます。

研究面では地域貢献するための研究を推進し、より多くの教員が科学研究費補助金の申請を行うことで、研究に対する意識を向上させ、研究の成果を教育や地域社会に還元できるよう努めます。

地域との連携では「地(知)の拠点整備事業」(COC事業)に採択され、くらしき作陽大学と共に倉敷市との連携を通じて、全学的に地域の課題解決のため、教育・研究・社会貢献の三位一体の改革に取り組んでいきます。

世の中はグローバル化に向い、一方では地域の個性化、活性化が求められています。こうした社会環境の変化にも対応し、改めて本学の自己点検・評価を実施し、建学の理念に掲げる人材の育成をめざし、さらなる教育改革と大学の環境作りに邁進して参ります。

倉敷芸術科学大学 学長 河野 伊一郎

## 教育の充実

### ■教養教育改革

平成25年度より、現行の教養教育から教養科目と専攻科目が連動した全学的なカリキュラムの検討を進め、平成28年度入学生より順次、人間力・社会人基礎力の育成、初年次に大学で学ぶ意識を高める導入教育の強化、地域貢献に対する意識を高め地域で活躍する人材の育成及び教育内容・教育方法の充実を図りました。なお、今年度の実施状況を踏まえ、問題点・課題解決に努めていきます。

### ■学部・学科の設置

経済・経営学をベースとした幅広い危機管理を学び、社会で活躍する企業や組織で通用する危機管理の専門的知識を身につけた人材の養成を目的とした危機管理学部・危機管理学科を現在ある学部を改組し、平成29年4月に開設します。

### ■産学連携教育

教育研究の充実による「倉敷市まち・ひと・しごと創生総合戦略」への参画、また倉敷市の市街地利用教育による経済産業省の戦略的中心市街地商業等活性化支援事業への参画、さらに高梁川流域連盟の活動への協力など、倉敷市との連携を通じて、都市づくり、産業・観光振興の人材育成を進めました。また、デザイン・映像分野では企業や行政機関から

依頼される製品デザイン・プロジェクションマッピング、イメージビデオ等の製作により、学生の意欲向上をめざした生きた課題授業を実践しました。

### ■高大連携教育

教育提携校との生命科学、健康科学、情報科学、観光、美術工芸、デザイン、アニメーション分野などでの連携を引き続き行い、大学、高校間の境目のない接続教育の実現に努めました。

### ■入学前教育・初年次教育

入学前の新生生に対し、入学前教育課題集を作成、送付し、新生生が大学生活に期待や希望を抱いて入学できるよう、入学前準備教育を実施しました。入学後は、基礎学力の補完を目的とし、1年次対象に前・後期、基本英語・基本数学・基本化学・基本物理等の科目を開講し、学生一人一人の学力に応じた個別相談ができる体制を整え、初年次教育を充実させ、専門教育へ繋げるよう努めました。

### ■FD・SDへの取り組み

FD・SD研修会、授業アンケート、学生満足度に関するアンケート、授業公開などFD・SDへの取り組みを実施しました。授業アンケートに関して、実施結果を分析し、授業改善に向け反映するよう努めました。

### ■学科等の特色ある取り組み

- (1) 芸術学部では、倉敷に根差した地域文化プラットフォーム形成のプロセス研究・開発を進めました。この地域拠点となるプラットフォームを東町、玉島の2カ所に「まちなか研究室」として開設し、新しい芸術の交流拠点、新しいものづくりの拠点として地域コミュニティと連携し、地域の抱える課題解決に取り組みました。
- (2) 産業科学技術学部では、市民生活の質の向上を高めるための市民講座を開設していましたが、昨年度より地(知)の拠点整備事業(COC事業)の中で、教育改革と研究改革の成果を地域に還元する生涯学習の場としての「倉敷みらい講座」に繋がまし

た。

- (3) 生命科学部では、平成24年5月に設立された「鈴木章ケミストリーネットワーク」を通じて、化学教育の普及をめざして活動しています。また、地(知)の拠点整備事業(COC事業)において、備災・減災力育成研究に取り組みました。

### ■資格取得

臨床工学技士、臨床検査技師、救急救命士等の養成に努め、国家試験資格等の100%合格を目指して努力しました。

### ■教育改善の支援

#### 1. 大学コンソーシアム岡山

大学コンソーシアム岡山では、岡山県内の16大学が連携し、(1)大学相互の協力と情報交換、(2)地域社会との交流と生涯学習の推進、(3)地域高校との連携、(4)地域創生学の構築、(5)地域発信による国際交流を行っています。本学は連携の中で、相互に単位互換として科目提供、また、生涯学習講座への講師を派遣しました。

#### 2. インターンシップを通じた産業界のニーズに対応した教育支援

平成27年度をもって終了した補助金事業の「大学教育再生プログラム」で築き上げてきたネットワークを活用し、倉敷市やロータリークラブ等の支援のもと地元企業との連携を深め、インターンシップやキャリア教育に取り組み、社会的・職業的に自立し、インターンシップを通して産業界のニーズに対応した人材の育成に努めました。

#### 3. 地(知)の拠点整備事業(COC事業)での教育支援

COC事業において、地域活動の中核として活躍できる資質・能力を修得する系統的な学生教育プログラム(くらしき若衆認定制度)においては、地元有識者の外部講師から「倉敷」を学び、自ら街中に出て地域課題を探り出すアクティブラーニング等を実践し、まちづくりのリーダーとして活躍できる社会人の育成を目指しました。10月には、くらしき若衆認定制度で初めての「小若」認定証授与式が行われ14人が認定されました。

## ■鍼灸ケアセンター

ヘルスピア倉敷鍼灸ケアセンターでは、生命科学部健康科学科鍼灸専攻の学生が実習を行っており、実技修得に励んでいます。また、鍼灸治療院では、本学有資格教員が下記の日程にて外部診療を行っています。

毎週火・木曜日

10:00～12:00、14:00～17:00



## 研究の充実

### ■科学研究費助成事業等獲得の推進

科学研究費助成事業（補助金分・基金分）、受託研究、共同研究事業等の外部資金を積極的に獲得することを推進し、9月には、科研費獲得のための申請書作成の説明会を実施しました。申請者や採択者に対し学内研究補助金等を設け、21件(昨年18件)の申請がありました。今後も申請書応募件数の増加に努めていきます。また、外部資金相談窓口を設け情報発信し、研究活動の充実に努めました。

### ■地(知)の拠点整備事業(COC事業)での研究活動

#### 1. 倉敷アートスタート研究

地域住民と学生が協業して活動プラットフォームを形成する倉敷アートサポートプロジェクト研究とトップアートを活用した倉敷ブランドの確立、並びに地域外のアートマーケットに対する発信を行うオルタナティブ・アート・プロジェクト研究を行いました。

#### 2. 備災・減災力育成研究

安全・安心の地域づくりに寄与するため、緊急避難時の行動分析調査を実施し、クライシスマネジメ

ント教材を開発して、地域の備災・減災力を育成するための映像等を用い、啓発活動を行いました。9月には、昨年につき、東北大震災被災地へ学生11名、教員3名で視察を行い復興状況の確認を行いました。

## 学生支援

### ■修学支援

入試の多様化に伴い、基礎学力の充実を図るため各科目（英語・数学・物理・化学）の学習相談や基本講座を開設し学習の支援を行いました。

### ■障がい者学習支援

障がいを有する学生に対して、障害を理由とする差別の解消のため、大学全体で取り組み、キャンパスライフが充実したものになるよう、個別支援を行いました。

### ■生活支援

#### 1. 奨学金支援

日本学生支援機構の奨学金を中心に各種奨学金（地方自治体等）を含め、人物、学業に優れ、経済的な理由のため修学が困難な学生に経済的な援助を行う事務窓口を設け、奨学金支援を行いました。

#### 2. 健康等支援・相談

学生の健康管理と健康増進を図るため、定期健康診断の実施や健康に関する相談、心理的・精神的な相談など大学生生活全般にわたる支援を行いました。また、法の義務化による教職員の心理的な負担の程度を把握するための検査（ストレスチェック）を実施しました。

### ■進路支援

#### 1. 就職ガイダンス

就職ガイダンスは、1，2年次生の低学年を対象に数回開催しました。3年生前期からは、OB・OGの体験報告会や4年次生の内定者報告会をはじめ、マナーメイク講習、個人／集団面接トレーニングな

ども数回取り入れて実施しました。

## 2. 就職対策講座

履歴書作成や小論文対策等を集中的に実施しました。また、公務員採用対策講座を通年で実施し、公務員希望者の支援をしました。

## 3. 職業適性等

1年次生を対象に、大学生基礎力調査を実施しました。この調査により、自己発見・自己認識が進み、大学生活における具体的な目標設定が容易になるように支援しました。さらに、3年次生には、キャリアアプローチ(自己診断・適職診断)を実施し、このプログラムで明らかになった「自分の強み」を活かし、希望の進路を実現できるように指導しました。また、年2回(7月・10月)適性検査能力試験を実施し、学生が自分の基礎能力を知ることにより、採用試験に向けた対策に反映させました。

## 4. 就職支援

就職活動の質問、不安、悩みなどの対応ができるように24時間メールにて学生対応にあたりました。就職試験に向けた面接指導や履歴書指導のほか、就職に関する相談もキャリアセンターで随時受付し、学生に対するきめ細やかな就職支援を行いました。

## 5. 学生カルテ

学生との面談記録、キャリアガイダンスの出欠状況などのデータを一元化した学生カルテの構築を進め、それにより、きめ細かい学生生活の支援や就職活動支援の一層の充実に努めました。

## 6. 就職懇談会

企業担当者と教職員が情報交換を行う、加計グループ合同の就職懇談会を、東京、大阪、広島で開催し、就職先の開拓や採用情報の入手に努めました。

## ■留学生支援

新入生に対して、指定宿舎の部屋を確保し、生活面や学費減免、各種奨学金の紹介などの支援を行いました。また、在留資格の手続きなど大学生活を円滑に送ることができるようにバックアップを行い、10月には、留学生別科1年半コースに中国、マレーシア、パキスタン、ベトナム、スリランカ、ネパールから25名の留学生が入学しました。

## 社会連携・社会貢献

### ■地(知)の拠点整備事業(COC事業)の推進

地域再生の核となる大学をめざして、平成26年度本学とくらしき作陽大学の2大学の共同申請で採択されたCOC事業を、倉敷市との連携を通じて、全学的に地域の課題を解決するための教育・研究・社会貢献を推し進めました。

### ■教育提携校との連携強化

高校生にとって将来を考えるきっかけの一助となるように、本学の見学や授業体験、芸術学部卒業制作展鑑賞会などの受け入れ、教育提携校へ講師を派遣しての模擬授業等の高大連携を強化し、大学での学びの提供を行いました。

7月には、関西高等学校と生徒・学生の相互の受け入れを通じて地域に貢献できる人材の育成を目指し、教育連携協定を締結しました。

## 教育研究環境

### ■施設等の充実

開学以来の空調設備の老朽化に伴い、省エネを図りよりよい環境のもと教育・研究が可能となるよう3号棟、6号棟(食堂)の空調設備の更新を行いました。

## 学生の受入

### ■広報支局長による広報活動強化

高校生にとって進路選択に際しもっとも影響を受ける高校教員との密接な関係を築くため、高等学校の現状に詳しい、本学担当広報支局長による高等学校訪問を強化することで、高等学校現場での認知度向上に努めました。

## ■高等学校訪問の見直し

岡山県内及び隣接県の高等学校訪問を重点的に実施していますが、新たに山口県及び大阪府の高等学校訪問を実施することで、より広範囲な高等学校現場での認知度向上に努めました。

## ■入試方法等

設置する学部・学科のアドミッションポリシーに沿った入学者の受入及び広範囲となる地域からの受験生ニーズに応えるべく、利便性に配慮した入試の実施に努めました。その一環とし、昨年度より導入しているネット出願を今年度はAO入試、推薦入試等にも拡大しました。

## 内部質保証

### ■自己点検・評価

本学では、開学と同時に自己評価委員会を設置し、自己点検・評価に取り組んでいます。この委員会には、学内委員のほか、産・官・学から1名ずつ外部有識者を構成員に迎え、外部委員の意見を評価に反映させています。大学院、学部、学科、各種委員会が当初目標を設定し、中間報告を経て最終到達報告を行い、次年度に前年度を踏まえた改善目標を設定するなどPDCAサイクルを機能させ教育改革を行いました。また、平成29年度には、日本高等教育評価機構での認証評価受審のため、自己点検評価報告書等の作成準備をしています。

### ■教員業績システム

教員の基本情報、教育活動、研究業績、学内活動、社会貢献活動等の項目をデータベース化した教員情報システムの構築を推進しました。これにより、各教員の業績等を把握し、様々な面への活用を検討していきます。

## その他取組等

### ■重要無形文化財保持者（人間国宝）

芸術学部 村上 良子教授が工芸技術の部で女性として同分野最年少で重要無形文化保持者（人間国宝）に認定されました。

### ■創立20周年記念事業

創立20周年を記念し、記念オブジェの制作・設置（4月完成）、クラブハウス（27号館）の増設（10月完成）、ホームページへの創立20年の歩みや将来に向けてのページの制作など記念事業を実施しました。

## 受賞・課外活動

### ■主な受賞

- 第67回岡山県美術展覧会
  - 日本画部門 県展賞1名
  - 工芸部門 岡山市長賞1名
  - デザイン部門 県展賞1名、奨励賞1名、入選3名
- 上野の森美術館大賞展 入選1名
- わが街健康プロジェクトポスターコンテスト 優秀賞2名
- 第56回日本クラフトデザイン賞 入選2名
- 第27回春の院展 入選1名
- 京都花鳥館賞奨学金2016
  - 最優秀賞1名、優秀賞1名
- 男子岡山オープンボディビル選手権大会 2位

### ■部活動報告

- フィギュアスケート部
  - 第71回国民体育大会フィギュアスケート 成年男子優勝
  - USインターナショナルクラシック2016 男子10位
  - 第10回西日本学生フィギュアスケート選手権大会
    - 男子優勝、6位（2名出場）
  - 第42回西日本選手権大会 男子8位
  - 2016NHK杯国際フィギュアスケート競技大会 男子3位
  - 第85回全日本フィギュアスケート選手権大会

男子準優勝、16位（2名出場）

四大陸フィギュアスケート選手権大会 男子6位

世界フィギュアスケート選手権大会 2017 男子19位

○バスケットボール部

(女子)

第8回中国学生バスケットボール新人大会 3位

第42回中国大学バスケットボール選手権春季優勝大会 3位

第33回日本女子学生選抜バスケットボール大会 1名選拔出場

第71回国民体育大会 2名選拔出場

全日本大学バスケットボール選手権大会

中国地区予選会 3位

(男子)

第8回中国学生バスケットボール新人大会 4位

第42回中国大学バスケットボール選手権春季優勝大会 4位

第20回日本学生選抜バスケットボール大会

1名選拔出場

全日本大学バスケットボール選手権大会

中国地区予選会 4位

○空手道部

第44回全日本空手道選手権大会 1名出場

■学部・大学院の学生募集停止

・産業科学技術学部経営情報学科(平成29年4月)

・産業科学技術研究科計算機科学専攻博士(後期)課程 (平成29年4月)

・産業科学技術研究科計算機科学専攻修士課程 (平成29年4月)

■事務組織内容の追加

障害者差別解消法の平成28年4月1日施行に伴い、学生課、健康管理センターに障害者支援に関する項目を追加し、平成28年度は暫定的に運用してきましたが、障がい学生の支援を充実させるため、平成29年度より、健康管理センターの名称を変更し、新たに重点的に対応する課を設置することとしました。

■大学院の組織改革

大学改革等に伴う学部・学科の改編により生じた学部組織と大学院組織の不整合の是正に向け全学的に検討し、次年度以降、具体的に進めていきます。

## 人事・組織

■副学長・学部長の選出

副学長並びに産業科学技術学部長の任期満了に伴い、副学長：奥本 寛氏、学部長：濱家輝雄氏(再任)を選出し、4月1日から新体制の下、大学運営に当たりました。

■学部・大学院の学科・専攻の廃止

募集停止していた芸術学部美術工芸学科並びに芸術研究科工芸専攻修士課程の在籍者が卒業、修了したため、平成29年3月31日付で廃止しました。

## 主な行事

4月4日	入学前オリエンテーション
4月5日	入学宣誓式
4月6日 ～9日	新入生・在学生オリエンテーション
4月10日	大学院(通信制)入学宣誓式
4月11日	前期授業開始
4月16日	霞祭
6月5日	春オープンキャンパス
7月30日 31日	夏オープンキャンパス
8月1日 ～5日	前期定期試験
8月6日 7日	教員免許状更新講習会
9月10日	教育懇談会(地方会場)
9月17日	教育懇談会(本学会場)
9月23日	後期オリエンテーション
9月24日	秋オープンキャンパス
9月26日	後期授業開始
10月12日	留学生別科1年半コース入学宣誓式 COC事業くらしき若衆認定証授与式
10月29日 30日	芸科祭 芸科祭・保護者対象オープンキャンパス
11月19日	合格者大学相談会1回目
11月25日	COC事業中間成果発表会・第1回町 衆・若衆フォーラム・外部評価委員会
11月29日	就職懇談会(東京会場)
2月6日 ～10日	後期定期試験
2月11日	合格者大学相談会2回目
3月3日	就職懇談会(広島会場)
3月10日	就職懇談会(大阪会場)
3月23日	学位記授与式

## 学生・教職員数

### ■在籍学生数

(平成28年5月1日現在)

研究科・学部・学科名		入学定員	入学者数			収容定員	在学者数		
			留学生	社会人	留学生		社会人		
大 学 院	芸術研究科(博士)	4	0	0	0	12	3	1	0
	芸術研究科(修士)	10	1	1	0	30	4	1	0
	産業科学技術研究科(博士)	4	0	0	0	12	2	0	0
	産業科学技術研究科(修士)	16	3	0	0	32	5	0	0
	人間文化研究科(修士)	15	2	1	0	30	6	4	0
	大学院 計	49	6	2	0	116	20	6	0
芸 術 学 部	美術工芸学科 (募集停止)		—	—	—	35	14	0	0
	メディア映像学科	50	40	2	0	189	172	14	0
	デザイン学科	—	—	—	—	35	27	1	0
	デザイン芸術学科	55	33	3	0	165	112	10	0
	計	105	73	5	0	424	325	25	0
技 産 術 業 学 部 学	経営情報学科	90	36	8	0	336	132	30	0
	観光学科 (募集停止)		—	—	—	47	18	8	0
	計	90	36	8	0	383	150	38	0
生 命 科 学 部	生命科学科	50	42	0	0	195	207	1	0
	健康科学科	—	—	—	—	55	60	0	0
	健康科学科(健康科学専攻)	55	70	0	0	165	182	0	0
	健康科学科(鍼灸専攻)	30	9	0	0	90	27	0	0
	生命動物科学科	—	—	—	—	67	64	0	0
	動物生命科学科	60	44	0	0	182	142	0	0
	生命医科学科	50	51	0	0	200	208	0	0
	健康医療学科 (募集停止)		—	—	—	30	15	0	0
計	245	216	0	0	984	905	1	0	
学部 計	440	325	13	0	1,791	1,380	64	0	
<b>通学制 合計</b>		<b>489</b>	<b>331</b>	<b>15</b>	<b>0</b>	<b>1,907</b>	<b>1,400</b>	<b>70</b>	<b>0</b>
大 学 院 (通 信 制)	芸術研究科(修士)	10	0	0	0	20	2	0	0
	産業科学技術研究科(修士)	20	0	0	0	40	0	0	0
	人間文化研究科(修士)	30	1	0	1	60	3	0	1
	計	60	1	0	1	120	5	0	1
<b>通信制 合計</b>		<b>60</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>120</b>	<b>5</b>	<b>0</b>	<b>1</b>
<b>総合計 (通学制+通信制)</b>		<b>549</b>	<b>332</b>	<b>15</b>	<b>1</b>	<b>2,027</b>	<b>1,405</b>	<b>70</b>	<b>1</b>
別 科	留学生別科	60	11	11	—	80	33	33	—
	計	60	11	11	0	80	33	33	0

(単位:人)



## ■ 卒業生数等一覧

(平成28年度)

区分		修了者・ 卒業生	満期 退学	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
大学院	博士	1				0%	-	0	0	1
	修士	8	-	7	7	100.0%	0	0	0	1
学部		353	-	270	266	98.5%	12	48	4	25
大学院（通信制）		4	-	-	-	-	0	-	-	0
学部（通信教育課程）		-	-	-	-	-	-	-	-	-
別科	留学生	31	-	-	1	-	30	12	-	0

※ 修業年限を超えて在籍している学生数（平成29年4月1日現在）

（単位：人）

主な就職先	株式会社ストライプ インターナショナル、沖縄県立美術館博物館、株式会社ザグザグ、株式会社カプコン、日本郵便株式会社、株式会社白十字グループ、株式会社中国シール印刷、株式会社イマート、株式会社グラフィカ、浅野産業株式会社、岡山県警察、ホルクラングアイ岡山株式会社、株式会社ビック・エス、シブアーズ株式会社、株式会社GU、九州大学病院、株式会社新来島どっく、岡山西農業協同組合、西日本旅客鉄道株式会社、三田市民病院、株式会社アトム、イソバット株式会社、兵庫県病院局、岡山市立市民病院、広島記念病院、株式会社岡山スポーツ会館、海上保安庁、東京消防庁、瀬戸内市消防本部、SMBC日興証券株式会社、JFEスチール株式会社西日本製鉄所
-------	---

## ■ 教職員数

(平成28年5月1日現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	助手	別科講師	教員 計	事務職員
1	3	53	21	13	3	1	1	92	63

(単位：人)

\*教授欄：学長、副学長の3名を含む。講師欄：副学長1名を含む。

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

年度		28年度 決算額	前年度 決算額
科目			
教育活動収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	2,138,717	2,215,770
	経常費等補助金	276,019	308,368
	その他収入	126,503	192,518
	計	2,541,239	2,716,656
支出	人件費	1,894,232	2,101,393
	教育研究経費	822,173	939,300
	管理経費	268,633	263,216
	その他支出	130	545
	計	2,985,168	3,304,454
教育活動収支差額		△443,929	△587,798
教育活動外	収入		
	受取利息等	2	67
	借入金利息等	10,556	12,753
教育活動外収支差額		△10,554	△12,686
経常収支差額		△454,483	△600,485
特別	収入		
	資産売却差額等	1,036	8,051
	資産処分差額等	6,115	60,048
特別収支差額		△5,079	△51,997
基本金組入前収支差額		△459,562	△652,481
基本金組入額合計		△104,199	0
当年度収支差額		△563,761	△652,481

### ■施設設備整備事業

(単位：千円)

事業名	金額
厚生会館空調機更新（6号館）	23,255
クラブハウス新築工事（27号館）	57,831
本館空調機更新（3号館）	20,446
芸術学部実習室 PC 関連設備	24,894
生体代行装置一式	6,048
教務システム用サーバー更新	2,247
学内ネットワークシステムファイアウォール導入	4,202
新クラブハウスへのインターネットケーブル敷設工事	1,188
ヘルシア倉敷ホルタルック施設設置工事	18,300